

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

東京都千代田区二番町 12-1 3 F

2007年2月14日

1日の走行距離 100 キロ超、深夜 2 時に帰宅

高校教員

本校は俗に言う困難校。それでも、教職員一同団結して毎日頑張っています。しかし、精神的なストレスに加え日々の多忙さも相当なもの。

生徒指導がらみの家庭訪問は、喫煙、暴力行為、窃盗・万引き、恐喝・いじめ等の問題行動を家庭と協力して解決するためには必要不可欠です。生徒が落ち着かない1年次が一番多く、私が担任の時は平均して月当たり4、5回訪問していた計算になります。クラス内に同時に3人も問題行動が発生した場合など、1日の走行距離 100 キロ超、帰宅は深夜 2 時等と言うこともありました。また、「問題の多い子ほど親との連携が重要。『一緒に頑張っていきましょう』の気持ちを伝えるためにも、良いことがあった時に訪問し両親と一緒に生徒を褒めてあげるといいよ」という先輩教師のアドバイスも忠実に守るとなると、さらに訪問回数は上乘せされます。おかげで「先生を、学校を教育委員会（文科省）に訴えてやる」という親とは遭遇せずになりましたが。

また、実際に問題行動が起こった時の初動も極めて大切です。まずは被害者、ついで加害者という順番に関係者一人一人に徹底的に話を聞きます。何人もの教員が細かく連絡を取りつつ、特に弱者に最大限の配慮をしながら、全員の言っていることが一致するまでねばります。一日中授業を自習にして一人の生徒と向き合っ、夕方からは長い会議で、気がついたら夜の8時にようやく昼夜ご飯。その後に生徒や親と話し、夜12時に校長先生差し入れのおにぎりを皆で食べようやく帰路へ、なんてことも何度かありました。

喫煙、食べ散らかし、コンビニでの万引き、トイレ、駅等の公共施設に居座り他人に迷惑をかける等、以前近隣からの苦情は相当なものでした。そこで本校は昼休みの立ち番及び校外指導を常時行うことにして数年になります。また、不満のはけ口でしょうか、壁の落書き、ロッカーや扉等を蹴って壊す等、毎日放課後その対処に時間を割いたものでした。努力の甲斐あって、最近めっきりと減ってきましたが、欠課の多い子と親に警告カード（イエローカード、レッドカード）を送るのも、根気のいる作業です。

以上は、主に担任の仕事ですが、生徒指導係も大変です。生徒がたむろする場所をタバコや食べ残しを拾うためのゴミ袋持参で近所回るのは毎日の日課です。また、近辺の祭や駅周辺の見回り、苦情処理等を警察とも連携しつつ定期的に行っています。

行政にも是非この状況を伝え問題解決の糸口に、との思いから本校の生徒指導関連の多忙さを記しました。